

登山月報

第1回国際視覚障害者クライミング選手権…	1
パルドール・ピーク登頂記 ……	2
新連載 Mountain World 第25回 ……	3
アジア山岳連盟 2010年年度総会 ……	4
国際自然環境講演会 ……	5
高室洋二郎さんが「山と人」発刊 ……	6
第49回全日本登山体育大会 ……	7
JMA、寄贈図書 ……	8
編集後記 ……	12

第1回国際視覚障害者クライミング選手権 — 6カ国が参加し世界で初めて習志野市で開催 —

12月4日、5日、千葉県習志野市東部体育館において、世界初の視覚障害者のクライミング選手権が開催された。同時に肢体不自由の 카테고리も開催され、参加国は日本、マレーシア、ロシア、イタリア、スペイン、フランス（ゲスト）の6カ国。

初日にはオンサイト競技が行われ、視覚障害者には立体コピー（印刷がレリーフのように盛り上がっている）のルート図が配られ、1回だけのトライによる競技が行われた。午後には翌日のワークト競技のための練習が、ひとり15分の持ち時間で進行した。

翌日は、午前中は体験クライミング。昼からは、ルビンシュタイン・テレビ症候群ながら、プロクライマーとして活躍する、フランスのフィリップ・リビエール氏によるスライドショーが行われた。フィリップ氏はゲストながらコンペにも参加した。

開会式後いよいよ注目のワークト競技。視覚障害用のルートは5.11cぐらいで、男子で3名の完登者が出た。

肢体不自由のほうは、5.12bというハイグレードにもかかわらず、前日の練習では、日本の小野巳年男と、スペインのウルコ・バランディアラン（両名



肢体不自由部門優勝の小野選手

とも片足）がどちらも最上部に達していて、予想では2名とも完登すると思われた。しかし練習より本番は緊張するのか、小野は意外にも4手前あたりでフォール、ウルコも終了点タッチに終わった。オンサイトは小野が1位、ウルコが2位。ワークトはウルコが1位、小野が2位ということで両名の優勝ということになった。

なお来年のイタリア・アルコでの世界選手権でも、障害者のカテゴリーが設けられることが決定している。



女子優勝の MONGJUAL Betsy 選手（マレーシア）



BARANDIARUrko C 選手（スペイン）



表彰



2010年(社)日本山岳協会創立50周年記念登山 パルドール・ピーク

東京野歩路会 京極 紳

(社)日本山岳協会創立50周年記念登山としてU A A (アジア山岳連盟主催)の「パルドール・ピーク」合同登山隊に参加した。

遠征隊は八木原昭明隊長、岩崎洋副隊長、関東地区7名、中京地区2名、関西地区2名の計13名で構成され、4月15日、カトマンズで日本隊は全員合流。16日、アジア山岳連盟とネパール山岳協会主催で結団式が行われ、日本、韓国、モンゴルに加え、ネパールの計4カ国27名の隊員が紹介され、モンゴル隊とは早速「ユルイ」(乾杯の意)で杯を重ね、各隊とはジェスチャーで懇親を深めた。

◆17日、ゴテンに向けてバスで移動開始。今夜からテント生活の開始だ。18日、ソムダン(3,270m)迄、標高差約1,000mを、ラリグラス(石楠花)や、ヒマラヤ固有の花を楽しみつつ約7時間かけてキャラバン。到着後は雷雨に驚かされる。

この日から日本隊の各自に「体調管理票」が配布され、SpO₂、心拍数・AMSスコアを朝夕2回計測し記入する事にし、高山病の自己診断の目安として活用を始めた。

◆19日、高所順応日。ガネッシュ・ヒマールが展望出来る場所へ向かったが、残念ながら時間切れで引き返す事になった。

◆20日、ジャスタニカ(4,000m)迄の約4時間のキャラバン。一直線に電線の無い電柱の列が山頂まで伸び、その脇に直登の登山道が続く。

◆21日、3時間足らずで、BC(4,280m)に到着。モレーンの先にパルドールの山頂が姿を現すが1時間程で本峰は雲に隠れてしまった。

◆22日、予定では高所順応日であったが、休息も高所順応の方法との隊長からの説明で、休養日になった。ここ数日間は低気圧の影響か天候が安定せず、午前中は晴れ、午後から曇り、夕方から雷と雪により数センチの積雪と気象が変わる。

◆23日、5,360mのハイキャンプ設営予定地を目指して8時にサイドモレーン上を登り始める。出発に際してBCに残るモンゴルのSanjaa女史が貴重なミルクを使って安全を祈願する自国流儀式を執り行って、嬉しかった。

約2時間半が経過し、4,800m付近にチーフガイドの指示で突然HCが設営され始め、明日の行程を考えると登頂が危ぶまれたが、八木原隊長、岩崎副隊長との話し合いで5,000m付近にHC設営となり、一安心する。13時頃氷河上に到着し、クレバスが有る為安全も考慮して、5,000m付近にHC設営を決定する。風雪が強まる中、各国隊員が協力し合ってテントを設営し、明日の ATTACK に備える事

になった。

◆24日、お茶で目を覚まし、お粥での朝食後、2時半に ATTACK を開始。日本7名、韓国4名、モンゴル3名とネパールのサダー、ガイドやサポーターと共に山頂を目指す。ヒドン・クレバスへの用心として各人アンザイレンし、勾配がきつい個所ではユマールを使用して滑落防止に対して安全を確保し、FANG PEAKの東側から氷河上をWINDY COLを目指して北上し、快晴のTILMANS RIDGEからルートを伸ばして行く。8時頃から頂上を目前にしてフィックス・ロープが伸びなくなり停滞。サダーは本峰の雪が少ない為、ナイフエッジの状態が悪く、これ以上の登攀は危険と話す。9時30分、ピーク手前の通称パルドールⅡの頂き5,743mを最高到達地点として下山すると岩崎副隊長より指示が出る。ここからの展望も最高でガネッシュ・ヒマールの山々が望め、各国の隊員もここで記念撮影を始める。各隊の14名とネパール隊の3名を加えて17名が登頂者となった。下山時は安全確保の為にエイト環を使用する。12時過ぎにHCに戻り秘蔵の餅を磯辺焼きにして食べる。旨い！休憩後にBCを目指して下山を続け17時頃に到着。隊長と他のメンバーに迎えられる。絶好の ATTACK 日和だった。

◆25日、完全休養日。のんびりしていると11時過ぎから雪が降り始める。各隊員共、強運に感謝する。

◆26日、前夜の積雪を踏みながら、思い出深いパルドールに別れを告げてソムダン迄下山を開始する。

◆27日、チリメ迄約1,500mを下る。途中の峠からはランタンⅡが望めたが、ランタン・リルンは雲に隠れていた。約9時間で到着。

◆28日、今日は休養日。チリメから約850m上に有るタトパニ(ガイド本によるとパラガン)温泉へ行く。天然かけ流しの露天風呂で混浴、しかも無料。昼食はダルバート・タルカリ・アチャールにビール。最高。

◆29日、再度恐怖のバス移動。帰路は市内の渋滞も含めて11時間だった。

◆30日、夕食はネパール山岳協会主催で解散式が開催され、各隊員に登頂証明書が発行された。

◆5月1日、バンコック経由で帰国の途につく。長い様で短い19日間だったが、文化、習慣、登山技術、体力、年齢等が違う合同隊の一員として遠征隊に参加し学ぶ事も多い山行だった。貴重な体験が出来、企画して下さった日本山岳協会、隊長、副隊長、そして日本隊の皆様「ありがとう」と御礼を申し上げたい。(山行資料提供：岩淵富士男隊員)

第25回 Mountain World

パキスタンの冬季8000m峰

池田常道

2009年2月のマカルー（8463m）登頂を以てネパール、チベットにある8000m峰9座はすべて冬季登頂された（第4回の記事参照）。残るは、K2（8611m）を初めとするパキスタン（および中国・新疆との国境）の5座である。これまでも挑戦の試みはあったが、今季は5座すべてに登山隊が向かうことになった。

まず、ブロード・ピーク（8047m）には、ポーランドのベテラン、アルトウール・ハイゼル率いる8人のチームが挑む。かつて80年代に黄金時代を築いたポーランドも最近は退潮著しく、2010年からあらためてヒマラヤ冬季登山再興5カ年計画を立ち上げた。若手を訓練して、毎年夏と冬に8000m峰を登ろうというもので、その第1弾として7月に行われたナンガ・パルバット（8126m）に成功、第2弾がこのブロード・ピークとなる。この一行は合わせてK2の許可も取得している。

ブロード・ピークは1987年3月6日、ほとんど冬季初登頂されるどころだった。おりからK2に挑んでいたポーランド隊の一員マチェイ・ベルベカが西稜から攻撃し、前衛峰まで達したのである。2003年にはフアニート・オヤルサバルら6人のスペイン・バスカ隊が6400mのC2まで進んだが、強風でテントが飛ばされるなどして、2月末に断念した。イタリアのシモーネ・モーロは2007年、08年と続けて少人数で挑み失敗。09年にはマカルーに目標を転じて、デニス・ウルブコ（カザフ）と共に冬季初登頂に成功した。ブロード・ピークでの最高到達点は、08年にシャヒーン・ベグ、クドラット・アリ（ともにシムシャル出身）と記録した7800mだった。09年にはアルトウール・ハイゼル、ロベルト・シムチャク（ポーランド）がドン・ボーウィ（カナダ）、パキスタン・ポーター5人と試みて7000mで敗退している。

K2に本格的な攻撃が試みられたのは過去2回しかない。最初は1987年ポーランド隊（アンジェイ・ザヴァダ隊長）で、南東稜の7350mまで達した。この年、日本ヒマラヤ協会の飛田和夫と熊田雅史は

コンコルディアまで偵察に入っている。2003年にはクシストフ・ヴィエリツキ隊長のポーランド＝ロシア＝カザフ隊が新疆側から北稜を登って7680mに達している。このとき最高到達点を記録したのが先述のウルブコで、その後マカルー冬季初登頂、8000m峰14座完登などの活躍を示している。なお、ロシアのヴィクトル・コズロフ（エヴェレスト北壁やK2西壁の隊長を務めた）は09年3月～4月にバルトロ側からK2を偵察、10年冬季挑戦のルートを下見したと聞かすが、計画は具体化していないようだ。

これまで十数回も冬季挑戦が試みられてきたナンガ・パルバットには、ポーランドのタマシュ・マツキェヴィッチとマレク・クロノフスキが挑む。また、ロシアからも1人名乗りを上げたクライマーがいると伝えられるが、モスクワの住人というだけで氏名は明らかではない。

ナンガ・パルバットはパキスタンの8000m峰5座のなかでもっとも多く冬季に試みられた山で、その始まりは1950年にまで遡る。J・W・ソーンリーら3人の英国隊が11月から12月にラキオト側を試みたもので、目的は偵察だった。当時ナンガ・パルバットはまだ登られていなかったのである。4人のシェルパ（そのなかには後年エヴェレスト登頂者となるテンジンもいた）が登高を拒んだので隊員だけで攻撃、1人は生還したがソーンリー他1人が帰らなかった。

64年にはヘルリヒコフファーのドイツ隊がガルパール側を試みて、南南東側稜の5800mまで達した。彼はこの6年後、メスナー兄弟の活躍と犠牲のうえにこのルートを完成するが、生き残ったラインホルトとの間に埋めがたい溝を作ってしまった事件はご存知のとおりだ。山学同志会の大宮求は81年10月～11月と84年10月～12月の2回、ディアマ氷河から北西稜を目指したが、81年は6025mで敗退、84年には6450mに達したところで隊員1人を失って断念した。ポーランド勢もちろん参戦した。ベルベカは89年と91年に南南東側稜を試みてそれぞれ6800m、6600mに到達した。ヴィエリツキは97年に西壁の7900mに迫り、08年には南西稜の6800mに達している。

ガッシュブルムI峰（8068m）とII峰（8035m）に関しては冬季に攻撃されたことがない。今季は前者にゲアハルト・ゲシュルらオーストリア隊3人、後者にはマカルーに成功したモーロとウルブコの強力ペアがコリー・リチャーズ（カナダ）を伴って挑むことになっている。

アジア山岳連盟 2010 年年度総会参加報告

10月6日、アジア山岳連盟の2010年度総会が北京郊外にある中国登山協会訓練基地で開かれた。この登山訓練基地は高さ15mのクライミングウォール、ボルダリングウォール、テニスコート2面、バスケットコート、選手宿舎、会議施設に高級レストランさらに近年建設の豪華なホテルまで含む大規模施設で、その資金力に驚かされた。

総会には9カ国・地域12団体が出席。日山協からは田中文男会長のほか高知の国澤静雄顧問と愛媛県の青木正樹参加がオブザーバーとして出席した。また日本勤労者山岳連盟からは齊藤義孝理事長と花哲也理事が参加された。

会議テーブルの前面に掲げられた会議バナーのなかに「昇龍アジアの誇り」とでも訳せる一句「Proud of Rising ASIA」があった。中国・韓国の対外的な自信の表れであろうか。

冒頭、中国登山協会(CMA)の顔(Yan)副会長が主催者として開催の挨拶に立ち、「UAAAは現在16団体が加盟し、年々力をつけてきているのは喜ばしい。中国登山協会CMAは1955年に創立して以来、近年活動範囲を拡大している。最近の特筆すべき行事としては2008年のチョモランマ山頂への聖火登頂がある。今後もUAAAを軸に、アジアの仲間との交流を強化したい。」と挨拶した。

UAAA李会長から、「バングラデシュとアゼルバイジャンからも加盟打診があったこと、さらにUIAAもUAAAとの関係強化に大きな関心を持つなど、UAAAアジアの存在感が増している」との挨拶があつて開会した。

各国の活動報告に多くの時間が割かれた。以下簡単に各加盟団体の報告を記す。

日本勤労者山岳連盟:50周年記念行事としてのUIAA登山委員会スティーブ・ロング氏招聘事業など記念事業を実施。また若い未組織登山者への働きかけに力を入れている。

香港HKMU:ハイキングブームで丘陵部にはいる人が増えているが、同時に遭難騒ぎも増えているので、遭難防止キャンペーンに取り組んでいる。

キルギス山岳会:政情不安で心配をかけたがもうだいじょうぶ。若い登山家向けのトレーニングなどにも取り組み始めた。もっともアクセスしやすい7000m峰がいくつもあり、サマーキャンプを開くし、未踏峰多いので是非きてほしい。

台湾CTMA:新会長陳慶章(Chen Chin-Chang)氏が挨拶した。人口の10%が60歳以上と高齢化が進んでお

り「健康のために歩こう」キャンペーンで、登山振興行事がいくつか実施された。炭酸ガス排出量の少ない登山の呼びかけがあつた。高所登山では、台湾山岳界として8000m14峰登頂めざす。

大韓山岳連盟KAF:韓国で初めてのクライミングのワールドカップ戦が8月28～30日に開催された。2011年1月には、アジアで初のアイスクライミングワールドカップを実施する予定。2010年は、青少年の海外派遣が多く、UIAAのユースキャンプ参加を始め、ヨーロッパ、アフリカ・ルーエンゾリ、チベット、パキスタン・中国等々、へ派遣された。これは、青少年派遣プロジェクト10周年として計画されたもので、10年間で延べ500人の青少年が参加し、41の遠征が実施されている。

韓国山岳会CAC:今後は、UAAAの活動に積極的に参画したいとの意思表示があつた。

ネパール山岳協会NMA:6月に新執行部が選出され会長にジンバ・ザンブ・シェルパ氏が新会長になった。マナスル、エベレストなどで清掃登山を実施した。未踏峰がまだ1000以上あり、またネパールは2011年を観光振興年と位置づけ、多くのイベントやキャンペーンが計画されておりUIAAのユースイベントも企画されている。アジアではじめてのUIAA主催のユースイベントとなるであろう。日本からも参加者を募りたい。

イラン:スポーツクライミングアジア選手権など国際大会に女性も含めた選手団を派遣した。高峰登山でも、ダウラギリ、カンチェンジュンガ、などに登頂した。国内では清掃登山も実施した。

中国登山協会CMA:遠征受け入れだけでなく、様々なスポーツに取り組んでいる。都市富裕層の中に登山に関心を持つ層も増え、世界7大陸最高峰7サミットを狙う人も出てきた。同時に遭難騒ぎも増えているので、遭難対策訓練も実施している。クライミングワールドカップ開催をはじめ、アドベンチャーレースなど多岐にわたる活動展開している。

規約改正問題:李会長からUAAAとして、新規申し込みの形式を規約上も整える必要があるとの提起があつた。また田中会長から、他の国際スポーツ連盟への加盟に足る形を整える必要があるとの発言があつた。これは、現段階ではUAAAはあくまで私的な団体であり、アジアの山岳界を代表する公的な性格を持つ組織には至っていないことを念頭においた意見で、アジア山岳連盟の長期戦略としてその方向を目指そうと意図である。

UAAA賞の構想:昨年、その年のアジア最高の登山行為を表彰しようとの意図で構想されたが具体的には

なっていなかった。今回の会議では、ピオレドール・アジアの後援団体となったらとの案も出たが、CMAが「今回のアジア・ピオレドール受賞対象となった登攀について、安全度の低い登山、高度が低いなど評価できない。従ってUAAA大賞とアジア・ピオレドールは一緒するべきではない。」と発言し後援構想は消えた。それでも田中会長から、環境、めざましい遭難救助などの分野に絞って選考を始めたかどうか。との提案があった。

合同遠征: 6月の春期理事会のあとに6月15日から25日までの10日間で4000峰を登頂する案を提示し承認された。現在分かっている詳細は別項の通り、参加希望者を募ってみたい。

次期2011年春期理事会はモンゴルの首都ウランバートルで6月に合同遠征の直前のタイミングで開催の予定。総会はUIAAのカトマンズ総会に合わせて10月にネパールで開かれることが承認された。

UIAAでは、具体的な事業、委員会活動があって、

組織として実態があるがUAAAは合同登山以外には、具体的な組織的行動がなく親睦団体の域をでていない。ただアジアの山岳団体が一年に1回集まり親睦を図ることに大きな意義があるのでそれでよいともいえるので、否定はできない。ただ今後、実態があり、加盟団体と、アジアの山岳愛好家の為になる公的な団体として、確立されるべきなら、取り組むべき課題は明らかである。

閉会の前にパキスタン水害被害への寄付が募られたが 日山協から1000ドルの意思表示があると、各国が続々と同額を申し出、さらに田中会長が個人として500ドルの募金を申し出ると韓国の李会長が同額を申し出るなどして、総額で1万ドルが集まった。早速パキスタン山岳会に連絡するとナジル・ザビル会長からアジアの仲間の篤い友情に感謝するとのことのお礼のメールがあった。

来年1月の日山協50周年記念パーティーでの再会を約して散会した。(笹生記)



社団法人日本山岳協会創立50周年記念事業 国際自然環境フォーラム 講演会

会期 2011年1月14日(金)

講演会 18:00 ~ 20:30

「世界・日本の子どもたちの環境教育」

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
417号室(センター棟・4階)

日本山岳協会が創立50周年を迎えたひとつの節目の年として、過去を振り返りまた未来に目を向けたいと、カトマンズ宣言に始まった山岳自然環境保護活動、そして将来の子どもたちに美しい自然を残したいという今の願いがどのように継承されていくか、未来に期待する子どもたちの環境教育や実践の在り方を考えてみたい。

講演会 18:00-20:30

「世界そして日本 子どもたちの環境教育の現状と在り方」

この度、国際山岳連盟(UIAA)青少年委員長及び自然保護委員長が来日されます。

この機会に欧米における子どもたちの環境教育の現状を知り、かつ日本の子どもたちの環境教育がどのように行われているか、自然環境活動の今後を見据えるための基本知識として学習し、新たな視点で自然保護活動の推進を考えたい。

〔講師〕

Anne Arran (国際山岳連盟青少年委員長・英国=女性)

Linda McMillan MBA

(国際山岳連盟自然保護委員長・米国=女性)

小澤紀美子

(こども環境学会会長、NPO法人こども環境活動支援協会代表理事)

主催

社団法人日本山岳協会・自然保護委員会 (JMA)

日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト (HAT-J)

協力

UIAA (国際山岳連盟)、UAAA (アジア山岳連盟)

【交通案内】



■小田急線
参宮橋駅下車
徒歩約7分

■地下鉄
千代田線
代々木公園駅下車
徒歩約10分
(代々木公園方面出口)

■京王バス
新宿駅西口
(16番より)
渋谷駅西口
(14番より)
(代々木5丁目下車)

■ホームページ
<http://www.nyc.go.jp>

高室陽二郎さんが「山と人」発刊

日本山岳協会顧問で山梨県山岳連盟名誉会長の高室陽二郎さんが、山梨日日新聞社から随想集『山と人』を発刊した。多彩な活躍をする高室さんが、これまで雑誌や新聞、機関誌などに書いた山にかかわる文章を精査し、加筆・修正した39編を収めた。四六判、414ページ。2,100円。

高室さんは、戦後山梨の山岳界をリードしてきた人物。戦後間もなく山梨工業専門学校（現山梨大工学部）に入学（卒業は山梨大学芸学部）し、社会人山岳会・南嶺会に入会。その思想と技術を大学山岳部に導入した。南アルプスや北アルプスの岩と厳冬期に足跡を印し、冬富士の国体に選手として出場。卒業して入社した山梨日日新聞社を辞めて北海道の増毛高校教師になる。ここでも山岳部をつくり、町民登山を開催し、増毛山岳会もつくった。

数年で山梨に戻り、記者に復帰。仕事の傍ら山を続け、南アルプスの厳冬期初縦走をした山梨大隊に参加。その後も山記事を書き、編集局長や山梨放送社長を歴任。平成2年から12年間、県山岳連盟会長を務めた。

『山と人』は、60数年に及ぶ山との付き合いの集大成。増毛時代を描いた「暑寒別岳の山と人」などは、山梨の山とは別の、もう一つの登山の原点と

いえる時代がうかがえる。戦後間もなくの登山の工夫と苦勞を振り返った「私的独断的回想五十年」「同六十年」は、抱腹絶倒の登山史。ここには戦前派と戦後派をつなごうとする思いが込められている。そして難病とけがを押しして60歳で登頂した「モンブラン登頂始末記」、さらにナンガ・パルバット上空の「エア・サファリ」は、青春の山と重ねた高揚感が伝わる。

高室さんはクラシック、歌舞伎、絵画、俳句、茶道など、造詣の深さは多彩。「提灯の灯り」「山河はや」とチベット」は、俳人の飯田蛇笏、飯田龍太、画家の野村清六の追悼。また多くの岳人の追悼、弔辞は、心情のこもった内容で胸を打つ。ここにも登山の歴史を伝えようという姿がある。山岳文化学会の会員でもあり、「廃仏毀釈の山頂山麓」「恩賜林行政に揺れる山麓」は、山が政治に翻弄された背景を探った。

収められているのは岩や厳冬期の先鋭的登山記ではない。登山歴を誇るでもない。深田久弥が『日本百名山』で描きかかった山と人の情感の交流、あるいは若山牧水の「あくがれ」につながるような山、そんな山の存在が感じられる本である。

(山梨岳連 深沢健三)

GPS登山地図

Gnavi 「GN-01」

パソコン用デジタルマップ標準装備

「道迷い遭難」には登山用GPS



登山地図4,342面を収録

<http://svgnavi.jp/>

携帯電話auでGPS登山ガイド

山と写真ガイド

豊富な登山と写真記事を掲載

圏外で使えるケータイGPS



au携帯電話より登山
全119エリア等高線地図

<http://yamanavi.jp/>

BLC BUSINESS LINK CORPORATION

「G-navi」、「山と写真ガイド」に関する情報は各ホームページへ
お問合せ 株式会社 ビジネスリンク TEL:03-3475-0454

第49回全日本登山体育大会を開催

富士山と南アルプスの自然保護を考える

第49回全日本登山体育大会は平成22年10月22日～24日の3日間、日本山岳協会の創立50周年記念大会として、静岡県山岳連盟の主管の下「霊峰 富士山を仰ぎ見る山々」を会場に、「富士山と南アルプスの自然保護を考える」をテーマに全国から大勢の山仲間をお迎えして開催されました。

大会は、初日の開会式、自然保護講演会、歓迎の夕べ。2日目が登山行動日、3日目が閉会式と計画された予定もトラブルなく順調に進みました。とくに登山日には天候に恵まれ、各コースから富士山を眺望することができました。

これも偏に、全国より参加して頂きました方々、日山協、地元関係機関、岳連加盟団体の皆様のご支援とご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

大会開催にあたり会場地の選定では、県内には南アルプス、富士山、天城山と著名な山々の存在する中、日本のシンボルである富士山を中心にするので、全国から参加される皆様にご満足して頂けるのではとの思いから、富士山が最も近くで眺望できる周辺の山々に5コースを設定しました。

各コースとも雄大な富士山の素晴らしい眺望、西面からは大沢崩れが深く食い込む荒々しい姿と併せ広大な裾野と朝霧高原、南面からは宝永4年に中腹から噴火した巨大な宝永火口、富士山頂からの日の出を湖面に写すダイヤモンド富士の田貫湖など富士山の麓でなければ体験できないポイントばかりでした。

今大会は単なる集団登山ではなく、自然保護のコンセプトを取り入れ、講演会では「南アルプスの自然保護」と題し高山植物の減少とニホンジカによる食害、登山者にできる保護活動など静岡県の高山植物の現状と保護の取組をお話していただき、高山植物の保護にはまずは現状を知ることが大切と学びま

した。さらなる自然保護意識の高揚が図られたことと 생각합니다。

各コースの登山口では、自然保護指導員からコースの

自然環境の現状や保護活動、登山者のできる自然保護等の説明を受け、登山行動の参考になったことと思います。

日程については、静岡市を起点に考え、開会式、閉会式を市内で開催し、登山日は静岡市からバスで移動しました。静岡駅前のホテルの開会式場、駅周辺の宿泊と各地から参加する皆様には交通の便が良かったことと思います。また、開会式、歓迎の夕べも同じ会場で参加者全員が一堂に会することができ親睦と交流を図ることができました。登山日の朝は出発時間の早いコースもありましたが、同一ホテルに宿泊という利便性から許容できる範囲でした。

登山行動では、山中行動の把握は携帯電話の通じることを確認し、携帯電話で行いました。特段の不都合もなく、各コースの行動を掌握することができました。設定したコースには健脚コースがあり、予想のコースタイムで下山できるか懸念もありましたが、全コース共概ね想定時間で下山できました。ただ、一部で全体から遅れた方がおりましたが、CLの判断で本隊と分けて行動し、下山後、配備してあった救護車で移動したため、全体の計画に影響することはありませんでした。

今回参加された皆様が、実施要項でコースを良く研究され、ご自身に合ったコースを選定されたことで、大会の運営を円滑に進めることができました。また、岳連加盟団体の皆様がコース設定に当たり、コース調査や整備を重ねて立案した綿密な行動計画が大会を事故なく無事に終了させることができました。

参加者の皆様から天候に恵まれ、富士山が素晴らしかったとの言葉をお寄せいただき、主管岳連として大変うれしく思っております。

静岡大会に参加された皆様に重ねて心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

(静岡県山岳連盟理事長 木ノ内高嘉)



Cコース・越前岳



Dコース・宝永火口～双子山

日時 平成22年11月4日(木)
17:30～21:00
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 田中会長、内藤副会長、
栗飯原副会長、神崎副会長、本
木副会長、西内、佐藤、高山、
尾形、相良、谷口、寺内、永井、
長谷川各常務理事
委任 仙石、堀井、青木、北山
常務理事（18名中14名出席）

1. 専門委員会動静

10月常務理事会以降

(10月14日～11月3日)

〔報告〕

(1)普及委員会 10月18日(月)
出席者4名

ア 中高龄安全登山指導者研修会
の報告と反省

イ 少年少女登山教室報告会の開
催 2月19日(土)
国立オリンピック記念青少年総
合センター

ウ 平成23年度ジュニア登山教
室 in 立山について

(2)広報委員会 10月18日(月)
出席者4名

ア『登山月報』10月号の編集に
ついて

- ・東アジア選手権
- ・東京医科大学の高山病外来新設
- ・自然保護委員総会（新潟）
- ・全国高校生クライミング選手権
大会要項

イ『登山月報』11月号の編集に
ついて

- ・千葉国体
- ・中高龄安全登山指導者講習会
（広島・山梨）

・500号を記念して（本多昭一）

ウ ホームページ

・総合トピックスとお知らせ欄を
数多くアップする

(3)自然保護委員会 10月19日(火)
出席者16名

ア 平成23年度自然保護委員総
会（鳥取）の予報について

イ 第2回自然保護委員研修会に
ついて

ウ 自然保護指導員の登録承認

・茨城1名、広島5名

エ 50周年記念事業・国際山岳
自然環境会議 in 東京について

オ 自然保護指導員研修会について
・11月26日(金)オリンピック記念
青少年総合センター

カ トレラン等の検討プロジェク
ト立上げについて

キ 野生鳥獣目撃レポートについ
て

ク 山岳トイレの取組みについて
・「山はみんなの宝！全国集会」
11月30日(火)について

(4)競技委員会 10月21日(木)
出席者19名

ア 10月常務理事会報告

イ 千葉国体の報告と反省

ウ 11月の競技委員会ブロック
研修会について

・東北ブロック

原、松田講師を派遣

エ 50周年事業・第1回ブライ

【50周年記念募金協力者ご芳名】

(12月8日現在)

10口：茨城県山岳連盟、山梨県山岳連
盟、6口：新潟県山岳協会、4口：国澤鎮雄、
北田統一、3口：小島守夫、森下健七郎、
2口：佐藤盛雄、松本睦男、遠山誠之介、
山並久次、野田孝、中尾敏宏、原久三、
浅見豊、計良寿彦、鎌田耕治、小室勝男、
水上成雄、中島利一、朝田正博、千田幸司、
中島道郎、吉村忠明、長谷川松治、平井
忠、上原啓司、1口：山口雅照、雨谷庸
久、浦和西岳友会、大久保孟、加藤秀夫、
道正政信

総額：922口・461万円

ンド・クライミング選手権の進
捗状況について

オ 50周年事業・第1回全国高
校生クライミング選手権大会の
進捗状況について

カ 2011ワールドカップ印西の
進捗状況について

キ ボルダリング・ジャパンカッ
プの進捗状況について

ク アイスクライミング・ワール
ドカップについて

・2011年1月7日～9日

韓国・慶尚北道で開催

ケ 第7回（平成22年度）アイ
スクライミングジャパンカップ
について→中止

コ 後催県の準備状況について

・岐阜：野村常任委員が10月か
ら出席

・東京：清瀬・東久留米市議団が
山口に視察

・長崎：12/15～16、正規視察。
北山常務理事派遣

サ 東京国体からの監督に対する
日体協指導員資格の保有義務づ
けに対するアンケート結果と今

寄贈図書

●寄贈本●

下田泰義登頂断念記
植村直己冒険館
2009 植村直己冒険賞報告書
斎藤一男東西の接点
鹿島槍に挑んだ人たち
神奈川大学体育部山岳部
登高者の榮
山と溪谷
社梅海新道を拓く

●雑 誌●

山と溪谷社 山と溪谷 12月号
東京新聞出版局岳人 12月号
中国登山協会山野 11月号
双興通信 SOUL SLIDE 6号
双興通信世界の車窓から No.8

●会 報●

（財）健康・体力づくり事業団
信州大学山岳科学研究所
兵庫県山岳連盟
日本山岳文化学会

福岡山の会
横浜山岳会
（財）日本スポーツ振興センター
大韓山岳連盟
愛知県山岳連盟
（社）日本美術極拳連盟
高校生新聞社
（財）日本体育協会
（財）尾瀬保護財団
日本勤労者山岳連盟
針葉樹会
Koiean Alpine Club
新潟県山岳協会

東京野歩路会
群馬県山岳連盟
（財）日本山岳会
埼玉県山岳連盟
FEDME
国立スポーツ科学センター
東京都山岳連盟
（財）日本山岳会自然保護委員会
全日本合気道連盟
横浜山岳会
日本山岳写真協会

後の対応について
 シ 今後のトレイルランについて
 ・トレイルラン小委員会の立上げについて
 ス 日体協第三者委員会の会議(10/20)報告について
 (5)遭難対策委員会 10月27日(水) 出席者6名
 ア 日中韓国際救助セミナー派遣中止の件について
 イ ロープ強度試験の件について
 ・大阪府岳連13名、岐阜・愛知岳連3名、日山協10名、計26名参加
 ・試験内容の確認
 ウ 積雪期レスキュー講習会の件について
 ・講師依頼の内容確認→日本雪崩ネットワーク・講師でがわ氏
 ・雪質観察、V字シャベリング取扱
 ・講習内容、担当分担、その他
 エ 指導委より提案のハイキング・インストラクターの件
 オ ヘリ有料化の件
 ・埼玉県は取り下げた模様、富山でも議論
 ・消防庁検討会、11月15日開催予定
 カ その他
 ・レスキュー協議会継続の件(セーフティマウンテンナイト(仮称)の推進)
 ・UIAA登山委員会へ青山副委員長出席の件
 ・平成23年度総会、関西大学飛鳥研修所で開催の件
 (6)指導委員会 11月1日(月) 出席者12名
 ア 10月議事録確認
 イ スポーツクライミング上級指導員養成講習会(福井・宮城)の報告
 ウ 千葉国体監督会議のアンケート集計結果について
 エ 事務報告
 ・指導要綱改訂ほか
 オ 登攀技術研修会について
 ・11月20日～21日 国立登山研修所 主任検定(13名) 研修(13名)
 (7)選手強化委員会 11月1日(月) 出席者3名
 ア ユース合宿について

2. その他の重要事項 (10月14日～11月3日)

【報告】

- (1)ドーピング紛争に関するスポーツ仲裁規則等説明会 10月14日(木)
 於：京王プラザホテル 中川事務局長
- (2)スポーツクライミング上級指導者講習会 10月15日(金)～17日(日)
 於：宮城県第2総合運動場 永井常務理事、
- (3)50周年記念事業・クーンブ三大峠トレッキング隊出発 10月18日(月)
 於：成田空港 尾形常務理事
- (4)「山の日」制定協議会 10月20日(水) 於：H A T - J 本木副会長、尾形常務理事
- (5)第49回全日本登山体育大会 10月22日(金)～24日(日)
 於：静岡県・富士山周辺 田中会長、内藤、神崎、本木副会長、仙石、尾形常務理事
- (6)平成22年全国参与会 10月22日(金)
 於：ホテルアソシア静岡 田中会長、内藤、神崎、本木副会長、仙石、尾形常務理事
- (7)山岳遭難対策中央協議会幹事会(第2回) 10月26日(火)
 於：文部科学省 中川事務局長
- (8)スポーツ振興助成事業説明会 10月27日(水)
 於：国立競技場 中川事務局長
- (9)「新公益法人制度」説明会 10月28日(木)
 於：岸記念体育会館 尾形常務理事
- (10)故森谷重二郎氏偲ぶ会 10月28日(木)

- 於：東京グランドホテル 田中会長、他常務理事
- (11)山岳遭難・捜索保険の打合せ 10月29日(金) 於：事務局 三井住友・藤岡、瀬田、尾形常務理事
 - (12)日韓親善交流会 10月29日(金) 於：K K R ホテル大阪 粟飯原副会長
 - (13)JOCスポーツと環境担当者会議 10月29日(金) 於：味の素トレセン 松隈事務局長
 - (14)ロープ、結束等の強度試験 10月30日(土)～31日(日) 於：国立登山研修所 西内常務理事
 - (15)第1回日本山岳遺産サミット in 山梨 11月3日(祝) 於：山梨・甲府商工会議所 内藤、本木副会長
 - (16)神奈川大学体育会山岳部創部80周年記念式典・祝賀会 11月3日(祝) 於：神奈川大学横浜キャンパス 田中会長

3. 議事

- (1)平成22年度10月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)平成22年度臨時理事会議案について(一部報告事項へ移すことで承認)
- (3)50周年記念功労者表彰及び感謝状贈呈について(新たに提案された321名を承認。引き続き推薦者ゼロの岳連に打診することで承。お世話になった企業及び行政への感謝状贈呈について承認)

ネパールに行くなら、……+
風の旅行社にお任せ下さい。

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構えています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。

株式会社 風の旅行社

観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会(JATA)正会員
 総合旅行業務取扱管理者 原 / 小宮山

〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F.02/EL 6F
TEL.0120-987-553 FAX.03-3228-5174
 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3F
TEL.0120-987-803 FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> **e-mail** info@kaze-travel.co.jp

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、
年間遭難者数は約2,000人です。

■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

- (4)50周年記念式典・祝賀会について
(案内状送付における招待者の選定は、会長一任で承認)
- (5)トレイルラン小委員会の設置について (承認)
- (6)第60回日本スポーツ賞の候補者推薦について
(事務局が当該部署と協議して推薦することで承認)
- (7)専門委員会の常任委員の追加承認について
(日本勤労者山岳連盟の海外委員長・広木国昭氏を国際常任委員にすることを承認)
- (8)報告事項
ア 会計月次報告
イ パキスタン水害義援金について
ウ 50周年記念事業について
エ 山岳共済会報告
オ 城隆嗣顧問の受勲(旭日双光章)について
カ 消防ヘリの山岳救助運用に関する対応の件について
キ 平成22年度山岳レスキュー講習会(積雪期・西部地区)開催要項について

- 神崎副会長から西内常務理事に変更
- (7)「山はみんなの宝! 全国大会」
11月30日(火)
於: 日本青年館
田中会長、本木副会長、長谷川常務理事
- (8)日本勤労者山岳連盟望年会
12月3日(金)
於: アルカディア市ヶ谷
田中会長
- (9)50周年記念事業・第1回ブラインド・クライミング選手権
12月4日(土)~5日(日)
於: 習志野市東部体育館
本木副会長、高山、寺内、北山常務理事
- (10)近畿地区山岳連盟総合会議
12月4日(土)~5日(日)
於: 京都・比良山岳センター
内藤、栗飯原副会長
- (11)50周年記念事業・海外登山ク

- ロニクル・トークショウ「The Himalayan Day」 12月5日(日)
於: 国立オリンピック記念青少年センター
神崎、青木常務理事
- (12)中華民国山岳協会創立85周年記念式典・祝賀会 12月5日(日)
於: 中華民国・台北 田中会長
- (13)日本ヒマラヤ協会華甲望年会
12月11日(土)
於: 主婦会館プラザエフ
田中会長
- (14)長崎国体正規視察及びB J C会場の視察 12月15日(水)~16日(木)
於: 長崎県大村町
北山常務理事
- (15)50周年記念事業・第1回全国高校生クライミング選手権大会
12月25日(土)~26日(日)
於: 埼玉県加須市
田中会長、高山、寺内、北山、谷口常務理事

4. 役員等の派遣について

- (1)「山はみんなの宝! 全国大会」
実行委員会 11月5日(金)
於: 自然保護財団
本木副会長、長谷川常務理事、松隈常任委員
- (2)アジア大会結団式 11月6日(土)
於: グランドプリンスホテル新高輪
尾形常務理事
- (3)雪崩防災週間及び雪崩防災シンポジウム実行委員会 11月9日(火)
於: 国土交通省河川局
尾形常務理事
- (4)消防防災ヘリコプターによる山岳救助のあり方に関する検討会
11月15日(日)
於: 消防庁防災部防災課
西内常務理事
- (5)登攀技術研修会
11月20日(土)~21日(日)
於: 国立登山研修所
永井常務理事
- (6)50周年記念事業「安全登山の講演と映画会」(広島会場)
11月27日(土)
於: 広島コンピューター専門学校

International Federation of Sport Climbing
Japan Mountaineering Association

IFSC PARA CLIMBING CUP

1st International Blind Climbing Competition
Narashino, Chiba, Japan
2010/12/4-5

Blind Female General Result

Rank	B1	B2	B3	Family Name	First Name	Class	Nat.	OnSight			Afterwork			Total
								Height	Rank	Pt	Height	Rank	Pt	
1				MONGIJAL	Betsy	B1	MA5	19 -	1	1.00	22 +	1	1.00	1.00
	1			YATABE	Katsumi	B2	JPN	24	1	1.00	25	1	1.00	1.00
		2		AOKI	Hiromi	B2	JPN	22	2	2.00	24	2	2.00	2.00
			1	MIYATA	Keiko	B3	JPN	30 -	1	1.00	41 -	1	1.00	1.00
		2		MAEOKA	Mika	B3	JPN	28 +	2	2.00	30	2	2.00	2.00
			3	EJIRI	Yumi	B3	JPN	28	3	3.00	29	3	3.00	3.00

Blind Male General Result

Rank	B1	B2	B3	Family Name	First Name	Class	Nat.	OnSight			Afterwork			Total
								Height	Rank	Pt	Height	Rank	Pt	
1				IWAMOTO	Kenji	B1	JPN	23	3	3.00	35 +	1	1.00	1.73
	1			STEFANI	Matteo	B1	ITA	29	1	1.00	34 +	3	3.00	1.73
		3		KOMATSU	Noraki	B1	JPN	28 +	2	2.00	35	2	2.00	2.00
			4	KOSTYAKO	Romari	B1	RUS	19	8	6.00	34 -	4	4.00	4.90
			5	MAEOKA	Masahito	B1	JPN	21	4	4.00	13 +	7	7.00	5.29
			6	MAWASHIM	Kazuhiko	B1	JPN	21 -	5	5.00	26	6	6.00	5.48
			7	HAYASHI	Michio	B1	JPN	11	7	7.00	28 +	5	5.00	5.92
		1		FUKUMOTO	Junya	B2	JPN	top	1	1.00	top	1	1.00	1.00
			2	NAGAHASHI	Takasaki	B2	JPN	20	2	2.00	20 +	2	2.00	2.00
			1	IDOMOTO	Masayoshi	B3	JPN	top	1	1.00	top	1	1.50	1.22
			2	KUROSAWA	Shingo	B3	JPN	34	2	2.00	top	1	1.50	1.73
			3	EJIRI	Motohiro	B3	JPN	29	3	3.00	36	3	3.00	3.00
			4	HIKITA	Taizo	B3	JPN	29 -	4	4.00	26	4	4.00	4.00

Physical impairment General Result

Rank	Male	Female	Family Name	First Name	Sex	Nat.	OnSight			Afterwork			Total
							Height	Rank	Pt	Height	Rank	Pt	
1			EGORKINA	Rimma	Female	RUS	26	1	1.00	37 +	1	1.00	1.00
	1		BARANDIAF	Ulko C.	Male	ESP	31	2	2.00	47 -	1	1.00	1.41
		1	ONO	Mineo	Male	JPN	33 +	1	1.00	42	2	2.00	1.41
			MARSIGLI	Maurizio	Male	ITA	24	3	3.00	37 -	3	3.00	3.00
			ALBERGHIN	Matteo	Male	ITA	22	4	4.00	31 +	4	4.00	4.00

50th Anniversary
JMA (社)日本山岳協会創立50周年記念事業

国際自然環境会議東京 2011 日程

	13日 THU	14日 FRI	15日 SAT	16日 SUN
午前 Morning		会議 Lecture meeting 国立オリンピック記念青少年センター National Olympics Memorial Youth Center 小学校授業参観 給食体験/授業参観 渋谷区立神宮前小学校	健康自然ウォーク (散歩) Health Nature Walk 明治神宮/代々木公園	Dismissal Sightseeing of Tokyo 東京市内観光
午後 Afternoon	来日 Arrival From each Country	Open House Primary School School lunch And Lesson 神宮前小学校から青少年センターの棉路、表参道、明治神宮参拝を兼ねて健康ウォークで外国人参加者と会場に向かう。	日本山岳協会創立 50 周年 記念式典 / 祝賀会 東京プリンスホテル JMA 50 th Anniversary Celebration Tokyo Prince Hotel	The Document Day 国際委員会主催 毎日ホール
夜 Night	顔合わせパーティ First Friendly meeting	18:00 講演会 Talkshow 「子どもたちの環境教育」 国立オリンピック記念青少年センター National Olympics Memorial Youth Center	閉会式 Closing ceremony	
宿舎 Stay	国立オリンピック記念青少年センター National Olympics Memorial Youth Center	国立オリンピック記念青少年センター National Olympics Memorial Youth Center	未定 Undecided	



5. 報告

(1)自然保護指導員の承認
 茨城 1名 広島 5名
 (以上承認)

6. 連絡事項

① 平成22年12月常務理事会
 12月2日(木)17:30
 (岸記念体育会館103会議室)
 ※岸記念体育会館の会議室利用の都合で第1木曜に変更

編集後記

2010年もあと僅か、50周年記念事業も順調に行われて参りました。習志野市で開催されたブラインド・クライミング国際大会で「障害の壁を越えたのは、本物の壁だった」の言葉が印象的でした。

(広報 本木 総子記)

登山月報 第 501 号

定 価 100 円 (送料別)
 予約年間 1、200 円送料共
 昭和 45 年 12 月 12 日
 第三種郵便物認可
 (毎月 1 回 15 日発行)
 発行日 平成22年12月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 社団法人日本山岳協会
 電 話 03 - 3481 - 2396
 F A X 03 - 3481 - 2395

HANDY GPS RECEIVER & LOGGER **ATLAS[®] ASG-2** 販売価格 12,600円(税込)

GPSでアウトドアをもっと楽しく!

最大5箇所の目的地(経由地)が登録可能。
 事前に休憩場所や寄り道先のポイント設定に活用!

- 位置情報と移動情報を表示・記録 (リアルな数値情報とログ機能搭載)

株式会社 **ユピテル** 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33
 お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで TEL. 03-3769-1190
<https://atlas.yupiteru.co.jp>
 ※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入もできます。



ドコモ・au 12月は無料!

雨雪ふり・カミナリ
30分前にメールをお届け!



ケータイニュースサイト
NHK ニュース&スポーツ